

日本株発掘ファンド 米ドル型 第10期分配金は550円(1万口当たり、税引前)

2017年10月24日

平素は、「日本株発掘ファンド 米ドル型」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、2017年10月23日に第10期計算期末を迎え、当期の収益分配金につきまして、550円（1万口当たり、税引前。以下同じ。）と致しましたことをご報告申し上げます。

当ファンドは、分配方針において「収益分配前の基準価額が10,000円超の場合、10,000円を超える額をめぐりに分配金額を決定します。」と定めています。

当ファンドでは通常、株式を高位に組み入れて運用を行なっておりますので、決算日に分配を行なうためには事前に組入株式を一部売却し現金を準備する必要があります。しかしながら、当ファンドは純資産総額が大きいいため、組入株式の流動性など市場への影響等も勘案する必要があります。加えて、運用した結果として得られた収益をファンドの純資産に留保して運用に振り向けることによって、中長期的に信託財産のより大きな成長が期待できると判断し、10,000円を超過した額よりも少ない分配金額とすることを決定いたしました。

当ファンドの分配方針は以下のとおりとなっています。

- ① 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。
- ② 原則として、下記1.および2.に基づき分配金額を決定します。
 1. 各計算期末における収益分配前の基準価額（1万口当たり。既払分配金を加算しません。以下同じ。）が10,000円超の場合、10,000円を超える額をめぐりに分配金額を決定します。なお、計算期末に向けて基準価額が大きく上昇した場合など基準価額の動向等によっては、実際の分配額がこれと異なる場合があります。
 2. 各計算期末における収益分配前の基準価額が10,000円以下の場合、配当等収益から分配します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

※ 分配金は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社（大和投資信託）が決定しますので、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212（営業日の9:00～17:00）HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

《基準価額・純資産の推移》

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2017年10月23日現在

基準価額	10,688 円
純資産総額	62億円
TOPIX(配当込み)	2,536.63

期間別騰落率

期間	ファンド	TOPIX (配当込み)	米ドル
1か月間	+5.8 %	+5.7 %	+1.5 %
3か月間	+11.8 %	+7.9 %	+1.6 %
6か月間	+35.3 %	+18.4 %	+4.2 %
1年間	+54.5 %	+30.5 %	+9.3 %
3年間	----	----	----
5年間	----	----	----
年初来	+31.0 %	+17.2 %	-2.2 %
設定来	+15.7 %	+12.6 %	-7.0 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応当日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。為替の騰落率は、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を採用し、算出しています。

※TOPIX(東証株価指数)(配当込み)は当該ファンドのベンチマークではありませんが、参考のため掲載しています。

※グラフ上のTOPIX(配当込み)は、グラフの起点時の分配金再投資基準価額に基づき指数化しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

《分配の推移》

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (15/07)	0円
第2期 (15/10)	0円
第3期 (16/01)	0円
第4期 (16/04)	0円
第5期 (16/07)	0円
第6期 (16/10)	20円
第7期 (17/01)	0円
第8期 (17/04)	50円
第9期 (17/07)	210円
第10期 (17/10)	550円

分配金合計額 設定来: 830円

※分配金は、収益配分方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

《主要な資産の状況》

2017年9月29日時点

株式業種別構成	合計95.3%
東証33業種名	比率
卸売業	12.3%
電気機器	11.5%
化学	10.9%
機械	9.3%
サービス業	8.6%
情報・通信業	4.6%
建設業	4.5%
輸送用機器	3.1%
ガラス・土石製品	3.0%
その他	27.5%

※比率は、純資産総額に対するものです。

規模別構成	規模	比率	銘柄数
時価総額規模別	T 超大型(TOPIX Core 30)	4.1%	7
	O 大型(TOPIX Large 70)	7.3%	15
	P 中型(TOPIX Mid 400)	9.1%	32
	I 小型(TOPIX Small)	52.7%	187
	X その他	0.9%	3
東証二部、名証等		12.5%	72
ジャスダック		9.1%	63
東証マザーズ		4.3%	20
新規上場銘柄等		0.0%	1
合計		100.0%	400

※比率は、株式ポートフォリオに対するものです。

【運用状況・マーケット環境】

国内株式市況は、北朝鮮に関わる地政学リスクの高まりや対米ドルでの円高が進行などを受け一時的に軟調に推移する局面はあったものの、世界的な景気の回復傾向の継続や為替の円安進行、外需企業を中心に好調な企業業績が想定されたことなどから株価は上昇し、リーマンショック後の高値を更新しました。

このような市況のなか、バリュエーションが割安で業績が改善傾向にある銘柄を中心としたポートフォリオを継続しました。具体的には中長期での成長が期待された中小型銘柄、車載向けやIoT（モノのインターネット）など用途の拡大から好調な業績の継続が期待された半導体・電子部品関連の銘柄、人手不足により業績の拡大が期待された人材関連や省人化、ロボット関連の銘柄などの銘柄です。

このような運用を行った結果、基準価額は11.8%上昇し、同期間のTOPIXの騰落率7.9%を3.9%アウトパフォームしました。アウトパフォームの主な要因は、バリュエーションが割安で業績の回復が期待された銘柄や中長期の成長が期待された銘柄の一部が大幅に上昇したことなどです。

【米ドル為替の今後の見通し】

為替市場は年初来のドル安基調を受けて始まりました。ドル円は北朝鮮に係る地政学的リスクの高まり、米国の物価指標の下振れ、米国の政治的不透明感などを要因に米国長期金利が低下するにつれて円高が進みました。8月下旬以降はハリケーンの被害も懸念されるなか、9月上旬には一時107円台を記録しました。しかしその後は、FOMCの政策金利見通しの据え置き、米国の経済指標の改善、米国の税制改革への期待、地政学的リスクの小康などを要因に米国長期金利が上昇するに連れて円安が進み、113円台に達しました。

世界的に景気が安定しているなか、日本では政局の安定もあり、リスク選好の地合いが継続しやすく、FRBの金融政策の正常化も一因に米国長期金利が緩やかに上昇するに連れて、ドル円も円安含みでの推移が見込まれます。

【今後の運用について】

北朝鮮に係る地政学リスク、日米の政治情勢の不透明化や中央銀行による引き締め方向への政策転換に対する警戒感など不透明感が強い状況となっておりますが、グローバルで景気は総じて堅調に推移しており企業業績は改善傾向にあること、日銀のETF（上場投資信託）買い入れなどにより良好な需給環境の継続が想定されることなどから、政治リスクや地政学リスクの台頭などにより短期的に不安定となる局面はあるものの、総じて堅調な相場展開が継続するものと想定しております。

このように不透明感が強い状況においては、企業間の格差が拡大する傾向にあることから、アナリストの協力の下、今後の業績動向や中長期的な成長性などを勘案し、有望な銘柄の発掘に努めてまいります。具体的には、人手不足や働き方改革の恩恵を受ける省人化・ロボット・人材関連の銘柄や、用途の拡大から需要が旺盛な半導体・電子部品関連の銘柄、独自の製品・サービス等により中長期での成長が期待される銘柄などに注目してまいります。また、株価が大幅に上昇し割安感の薄れた銘柄などを売却し、株価が出遅れ割安に放置されている銘柄や来期以降の業績の回復が期待される銘柄を買い付けるなど銘柄入替えを行っていく方針です。

以上

収益分配金に関する留意事項

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

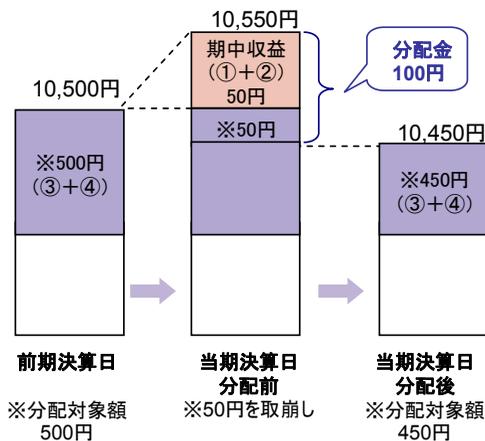
投資信託で分配金が支払われるイメージ



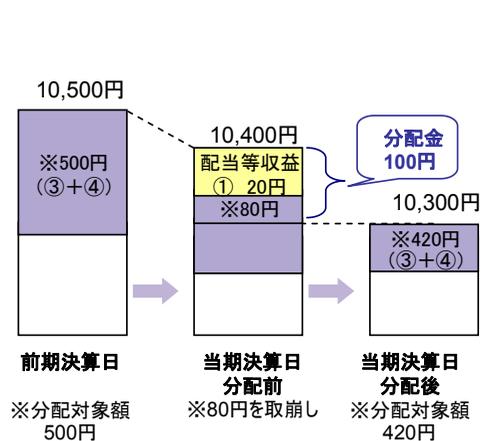
- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



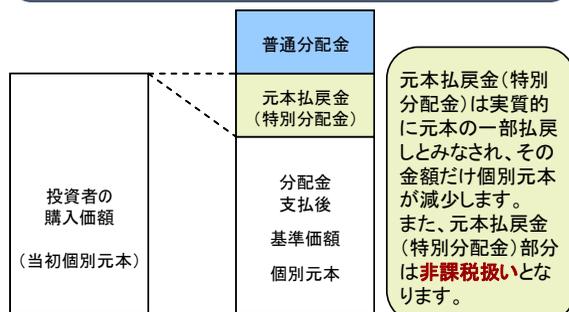
前期決算日から基準価額が下落した場合



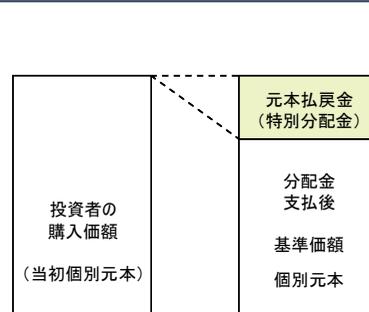
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

- ◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

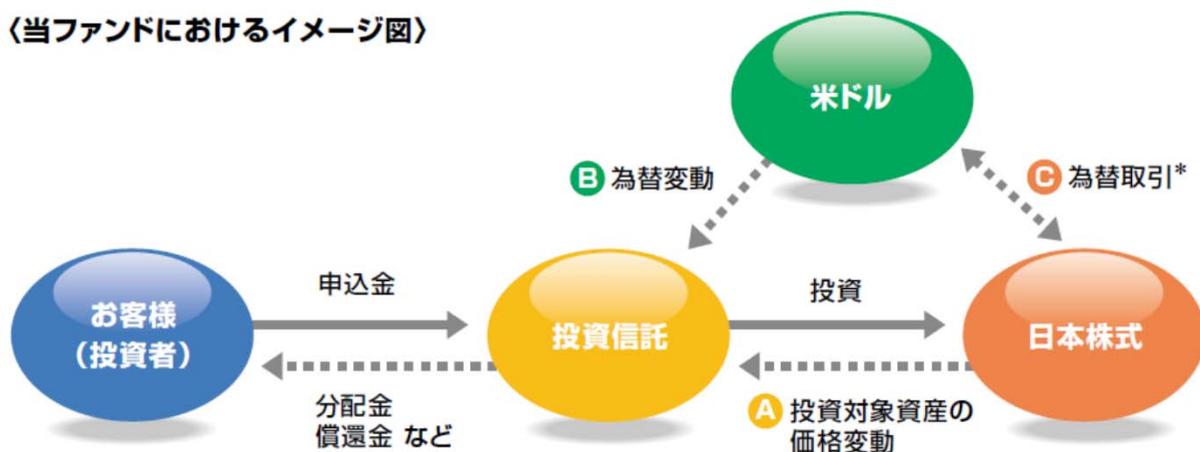
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

通貨選択型ファンドの収益のイメージ

- ◆通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるよう設計された投資信託です。

〈当ファンドにおけるイメージ図〉



*米ドルの対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

- ◆当ファンドの収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。

$$\text{収益の源泉} = \text{A 日本株式の値上がり/値下がり、配当} + \text{B 為替差益/差損} + \text{C 為替取引によるプレミアム/コスト (金利差相当分の収益/費用)}$$

収益を得られるケース	<p>株価の上昇、配当収入</p>	<p>・円に対して米ドル高</p> <p>為替差益の発生</p>	<p>米ドルの短期金利 > 日本円の短期金利</p> <p>プレミアム (金利差相当分の収益) の発生</p>
損失やコストが発生するケース	<p>株価の下落</p> <p>・発行企業の経営不安、倒産等</p>	<p>・円に対して米ドル安</p> <p>為替差損の発生</p>	<p>米ドルの短期金利 < 日本円の短期金利</p> <p>コスト (金利差相当分の費用) の発生</p>

※上記はイメージであり、実際の投資成果を示唆、保証するものではありません。

日本株発掘ファンド 米ドル型

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

わが国の株式に投資するとともに、米ドルへの投資効果の享受をめざすことにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。

ファンドの特色

- わが国の株式に投資します。
 - ◆銘柄の選定においては、主に業績動向、株価のバリュエーション等に着目します。
 - ◆個別銘柄の流動性、株価水準等を考慮し、ポートフォリオを構築します。
- 実質的に円売り／米ドル買いとなる為替取引を行なうことで、米ドルへの投資効果の享受をめざします。
(※)「為替取引」とは、通貨オプション取引等の通貨にかかるデリバティブ取引および外国為替予約取引をいいます。
- 毎年1、4、7、10月の各21日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。
 - ・マザーファンドは、「ジャパン・エクセレント・マザーファンド」です。
 - ※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「中小型株式への投資リスク」、「株価指数先物取引の利用に伴うリスク」、「為替変動リスク」、「通貨オプション取引の利用に伴うリスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※米ドルの為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

※米ドルの金利が日本円の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

日本株発掘ファンド 米ドル型

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 (上限)3.24%(税抜3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.566% (税抜 1.45%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問い合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等

大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

日本株発掘ファンド 米ドル型 取扱い販売会社

販売会社名 (業態別、50音順) (金融商品取引業者名)		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○		
丸三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第167号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。